

大規模災害等緊急事態における通信確保の在り方に関する検討会
インターネット利用WG(第6回会合)
議事概要

1 日時:平成 23 年 9 月 1 日(木) 15:00~17:00

2 場所:総務省 8 階 第 1 特別会議室

3 出席者(敬称略)

(1) 主査

相田 仁(東京大学大学院)

(2) 構成員

赤木 篤志(KDDI 株式会社)、古閑 由佳(ヤフー株式会社)、平 和昌(独立行政法人情報通信研究機構)、立石 聡明(社団法人日本インターネットプロバイダー協会)、富沢 高明(日本マイクロソフト株式会社)、中澤 崇(ソフトバンクBB株式会社)、藤井 宏一郎(グーグル株式会社)(代理:小菊 菜々子)、山下 克司(日本アイ・ビー・エム株式会社)、山下 聡(東日本電信電話株式会社)

(3) 総務省

原口電気通信事業部長、古市事業政策課長、齋藤データ通信課長、野崎電気通信技術システム課長、中西データ通信課企画官、山路電気通信技術システム課安全・信頼性対策室長、富岡事業政策課課長補佐、田邊データ通信課課長補佐、堀内データ通信課課長補佐、根本電気通信技術システム課課長補佐

4 議題

(1) 今後の進め方等について

(2) 質疑・討議

5 議事要旨

【今後の進め方等について】

○事務局より資料 6-1、資料 6-2、資料 6-3 について説明。

【相田主査】「大規模災害等緊急事態における通信確保の在り方について 中間取りまとめ(案)」に関して「今後速やかに」や「引き続き」という言葉がよくわからないとのことだったので「本検討会において」を追加し「本検討会において引き続き検討を深める事項」、「本検討会での検討を受けて各主体が今後速やかに取り組むべき事項」とした。また、今後必要なメンバーを増員するという話があったが、本WGの内容が多岐にわたっており、様々な方に参加していただいても議論が拡散して進まないことや、すでに検討を進めている項目もあるということで、新たなメンバーを増員したほうがよいのか、他の検討会に任せしたほうがよいかを再度整理し事務局に案という形で示していただいた。必ずしもそれは適当でないだろう、是非

本WGでこういった人をお呼びしたほうがよい、こういったことをやるべきだという意見があれば検討していきたいと思っている。「本検討会での検討を受けて各主体が今後速やかに取り組むべき事項」に関して、構成員の方に進捗状況をまとめていただき、その状況を踏まえて本WGで検討したほうがよいという項目が出てくれば検討していきたいと考えている。資料6-3は事務局が現時点で把握できる範囲でまとめたものであり、構成員の方にフリーフォーマットで各項目における進捗状況を提出いただき、次回以降、本WGで概要を紹介いただくとともに、問題点等が明らかになれば必要に応じて検討していくということで整理いただいたものである。いずれも事務局のほうで示した案ということで、全体的な進め方、各項目について、本日はフリーディスカッションで進めていきたい。

【立石構成員(JAIPA)】資料6-2の1ページ11行目にある「帯域制御の運用基準に関するガイドライン検討協議会において検討する」項目に関して、ガイドラインを作るために協議会を設置し、既にガイドラインも完成している。インターネットのトラフィック状況は毎年変わるのでデータをアップロードするために随時検討を進めている。この協議会で検討することが担当者も含めて一番適当だろうとなっている。平時のガイドラインはあるので、有事をどうするか、やるかやらないか、もしやるならどういったものをいれるべきか、というのを検討させていただきたいと思っている。

資料6-2の1ページ23行目について災害時のインターネットをどうするか、資料6-3の2ページ17行目について情報共有や協力の窓口をどうするかについて、そういうことができるのか、できないのか、あるいはするためには何があればよいのかというところを検討させていただければと考えている。

資料6-3の2ページ3行目にある「今回の震災でのインターネットの効果的な活用事例を収集・公表し、広範な共有について検討」の項目に関して、震災発生直後から即座に連絡を取り、話し合いなども進めており、地方に根付いているISPが120社ほどあるので今のところ情報を集めやすいのかなと思っている。

また、毎年数回ISPの集いを行っており、11月には仙台で地元の自治体、ISP、CATVを含めて行う予定であり、震災時の対応など情報収集のためにもぜひ参加していただけたらと思っている。

【相田主査】次回以降の地方自治体関係メンバーの参加について、オブザーバーという形で招き資料6-2にある「自治体からの意見を検討する」という項目を進めていきたいと考えている。

【山下構成員(IBM)】「自治体からの意見を聞きつつ検討する」は、本WGで検討することによろしいか。

【事務局】その通り。

【相田主査】次回以降参加していただく自治体の方は早急に決めたいと思っている。皆様から推薦等もいただきたいと思っているが人選は、主査と事務局に一任させていただきたい。また蓄える燃料について置き続ければ劣化するように思うが、どのくらい置いておいても大丈夫なものか。

【立石構成員(JAIPA)】直接の答えにはならないが、地域ISPは燃料タンクを持たずガソリンスタンドと契約する。タンク何本分かを契約し、それを普段も使用しているが、減るとその分

新しく継ぎ足すので置き続けるということはない。

【相田主査】そのほうが望ましい。あまり溜めこんでおくのは、火災等が起きた場合大変である。

【立石構成員(JAIPA)】燃料問題は、すでに震災の前後で対策をとっている事業者もあり、企業の大きさや所持している設備によりやり方は大きく違ってくるので、そういった情報共有、収集をすることもよいのではないか。

【山下構成員(IBM)】データセンターでは燃料の備蓄を行っている。備蓄量は48時間程度と規定しており、時々ガスタービンを回して点検等をしている。点検の中で燃料は消費され、その分を増量しているのので、燃料の劣化をそういう意味では防いでいると認識している。また、48時間を72時間にしてほしいという要望もあるが消防法等との関連もあり、屋外設置、地下設置のタンクにあまり大量の物を置けないという状況である。

【赤木構成員(KDDI)】燃料について数年というレベルで油層タンクを地下に埋設しており、温度変化や外気に触れるケースが少ない状態であるとそのくらい持つものだと思う。実際には一年点検等の様々な点検で消費していく分を継ぎ足していく。燃料については、ガソリン、軽油、重油等の種類をどうすべきかという問題や燃料の貯蔵容量の法規制等の問題、さらにタンクローリーの扱いや油層タンクの考え方をどうするかといった問題があるので、事実関係を確認しながら考えていけばよいと思う。

【相田主査】事務局ではA重油という話をうかがっている。

【山下構成員(IBM)】ガスタービンの場合はA重油が一般的である。タンクローリーの件はデータセンター間で話題となっており、タンクローリーの優先契約をしている事業者もこの震災後多くあらわれている。燃料給油の特別契約をする、供給の特別契約先を増やしタンクローリーを優先的に回すオプション契約をするといったことがデータセンターの災害対策の一つとされることが多い状況である。

【事務局】タンクローリーの契約について、契約の相手方というのは石油の元売り会社か。

【山下構成員(IBM)】基本的にはそうである。元売りがガソリンスタンドに送っているタンクローリーの一台をこちらが要請した時は、優先的に必ず回してくださいということである。

【相田主査】資料6-2の2ページ目10行目以降において、ジャパン・クラウド・コンソーシアムやASP・SaaSクラウドコンソーシアムで検討するとあるが、必ずしもこの場で決めたらおしまいというわけではないので、お帰りになってからでも新たな情報等がございましたら言うただければと思う。

【古閑構成員(ヤフー)】資料6-2でいくつか自治体からの意見を聞きつつ検討するということが書かれているが、具体的には自治体といっても県レベルか市町村レベルなのか。もし市町村から意見を聞くことになると、自治体によってかなり状況が違うと思うが、幾つぐらいの自治体にどういった形で聞こうとしているのかイメージがあれば教えていただきたい。

【事務局】極力、被災された県、市町村の方々からお話を伺いたいと思っている。しかし毎回本WGに参加していただくご負担を考慮すると市町村については、ある程度大きなところにならざるを得ないとも思っている。

【相田主査】県レベル、市町村レベルで1つずつということか。

【事務局】そうである。

【富沢構成員(マイクロソフト)】被災された方に来ていただくことに異存はない。ただ、私の仲間が被災地にかなり行っており、自治体の方々と被災された方々の中間にNPOの方々が入れ、実際のインターフェースとなって業務を回していたという話を聞いている。地方自治体の方々が来る際は、実際にNPO等の動いた方々の情報をインプットしてもらった上で持ち込んでいただきたい。

【相田主査】可能であればNPOの方々にもこちらに来ていただきたいが、実際に来ていただくことになると難しいところもあるので検討させていただく。

それでは、以上で討議を終了します。資料 6-3 で電気通信事業者等が中心となり取り組むべき事項につきまして、具体的取り組みの状況に関しましては適宜事務局にご提出ください。また、自治体などの人選等につきましては主査、事務局に一任いただきたいと思っております。(異議なし)